野球における頭部外傷の発生頻度

～ルール改正に着目して～

立山　大登　（競技スポーツ学科　トレーニング・健康コース）
指導教員　佃　文子

キーワード：野球，頭部外傷，脳しんとう，コリジョンルール

1．緒言

2016 年度より，野球のすべての競技レベルにおいて，あらたにコリジョンルールが適用されることとなった．これは，野手と走者の衝突を避け，脳しんとうを含む障害の発生を抑制するために設けられたものである．また，これまで野球における脳しんとうの発生に関する研究は国内では報告されていない．

そこで本研究では，学生野球における頭部外傷の発生頻度とその特徴を明らかにすること，及びルール改正により，頭部外傷の発生件数はどのように変化しているのか，この 2 点を明らかにすることとした．

2．研究方法

① アンケート調査

B 大学硬式野球部に所属する 2~4 回生の 55 名を対象とし，質問紙によるアンケート調査を行った．調査項目は，競技歴，脳しんとうの既往歴，頭部コンタクトの経験の有無である．脳しんとうの既往歴のある者については，受傷起点とその詳細をインタビューした．

② VTR 調査

2015 年度関西六大学野球連盟秋季リーグ戦(10 試合)，2015 年度京滋大学野球連盟秋季リーグ戦（23 試合），2016 年度京滋大学野球連盟春季リーグ戦(25 試合)，の計 58 試合の VTR を対象とし，VTR の視聴から，頭部への衝撃が加わった可能性のあるプレーの有無を集計した．

3．結果及び考察

① アンケート調査

55 名中 10 名に頭部コンタクトの経験があった．そのうち，脳しんとうと疑われる症状だったものは 3 名であった．発生状況の内訳は，クロスプレーによるものが 1 名，アクシデントによるものが 2 名であった．

② VTR 調査

全 58 試合中 34 件の頭部コンタクトシーンがあった．そのうち脳しんとうと疑われるものは 0 件であった．34 件のコンタクトシーンの内訳は死球 4 件，クロスプレー30 件であった(図 1)．クロスプレーは本塁上においてのみであり，そのすべてが捕手と走者によるものであった．またクロスプレーに関しては，ルール改正前が 33 ゲーム中 18 件(1 試合あたり 0.58 件)，ルール改正後が 25 ゲーム中 12 件(1 試合あたり 0.44 件)であった．ルール改正後，にクロスプレー数が減少する傾向がみられた．

本研究の結果から，ルール改正はクロスプレーの発生数そのものを減少させるには有効であったと考えられる．しかし，脳しんとうなど重大な頭部外傷の可能性を含むプレーが，このような頻度で見受けられるということは，脳しんとうなどの頭部外傷の安全管理や準備は，欠かせないものと思われる．

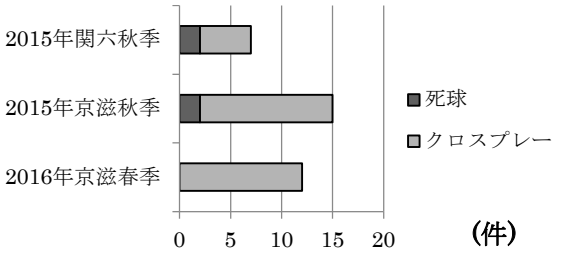

図 1　リーグ戦頭部コンタクト発生プレー件数

大学野球において，頭部コンタクトが発生する確率は，クロスプレーが最も高かった．

ルール改正により，クロスプレーの発生率は減少した．

以上の結果から，脳しんとうなどの頭部外傷の発生が起こりうるプレーの発生率は，減少したということが分かった．今後はコリジョンルールの徹底と，野球場の救急計画や救急搬路の整備等の頭部外傷に対する安全対策の構築が，野球における頭部外傷の減少に貢献すると考えられる．

主要引用・参考文献

体育活動における頭頚部外傷事故防止の留意点，独立行政法人日本スポーツ振興センター学校災害防止調査研究委員会，2015 年 3 月